

9月1日は「防災の日」

地域で高める防災意識

災害に対する認識を深めようと、

大正12年の関東大震災にちなみ、毎年9月1日を「防災の日」、

8月30日から9月5日までを「防災週間」としています。

平成23年の東日本大震災や、西日本を中心に発生した平成30年7月豪雨など、

さまざまな自然災害が発生し、全国各地で大きな被害をもたらしています。

防災の日を機会に、災害についていま一度見つめ直しましょう。

防災意識を高めよう

災害はいつどこで起こるか分かりません。日ごろから一人一人が災害について考え、防災意

識を高めていくことが大切です。

自らが行動「自助」の意識

自らの生命は自らが守るという意識を持ち、備えることを「自助」といいます。災害が発生したときに的確な行動が取れるよう、地域や職場などの防災訓練に積極的に参加し、防災行動力を高めましょう。

普段から飲料水や保存のきく食料などを、7日分を目安に備蓄しましょう。

みんなで協力「共助」の意識

自分たちのまちは自分たちで守る意識を共有し、備えることを「共助」といいます。

災害発生時には、地域の人々が互いに協力して助け合い、被害を最小限にとどめることが大



切です。障害がある人や要介護の認定を受けた人、高齢者などの要配慮者を、地域や事業所が協力し気遣うなど、普段からコミュニケーションを図り、いざというときには協力して支援しましょう。

むやみに移動を開始せず、落ち着いた行動を

大規模な災害が発生すると、公共交通機関が停止し、帰宅が困難になることが予想されます。多くの人が一斉に帰宅を始めると、落下物や転倒などで負傷する人が増えるほか、救助や救急活動の妨げになります。

●身の安全を確保し、職場や集客施設などの安全な場所にと

むやみに移動しない

●身の安全を確保し、職場や集客施設などの安全な場所にと

どうろう。

●災害用伝言サービスで、家族の安否を確かめよう。

●交通情報や被害情報などを入力しよう。

日ごろから準備を

●携帯ラジオや地図を持ち歩く。

●スニーカーや懐中電灯、手袋、飲料水、食料などを用意しよう。

●家族などと安否確認の方法、集合場所、帰宅経路の状況を確認しておこう。

防災行政無線の戸別受信機

戸別受信機は、停電対応用としてアルカリの単1電池を2本使用します。戸別受信機から電池の容量が無くなったことの合

図があったら、電池を交換し、右側面にある電源スイッチ（黒色で上下に可動）を一旦切つて

から、再度スイッチを入れ直します。受信状況が悪く聞こえない場合には、アンテナを最大に伸ばし、設置場所を変更して再度電源を入れ直します。それでも聞こえない場合は総務課に連絡しましょう。

自主防災組織に補助金を交付

区や自治会などの日常生活圏

域を単位とした、自主的な防災活動を行う組織などに補助金を交付し、自主防災組織の結成や活動を推進しています。

自主防災組織とは

「自分たちのまちは自分たちで守る」という、地域の自衛意識と連帯感で結成された組織を、自主防災組織と呼んでいます。

大地震などが発生した場合、警察や消防などの活動が、著しく困難になることが予想されます。このような状況では、住民自らが防災活動を行うことが期待されています。これは被害を最小限に食い止めることにもつながります。

補助対象事業と補助額

【地域の自主的な防災訓練など】補助額／費用の3分の2に相当する額で10万円まで

【防災用資機材などの購入】

補助額／自主防災組織の設立時に購入する場合は、費用の全額で20万円まで

申請方法

総務課にある申請書に必要書類を添えて提出してください。

問い合わせ先

総務課地域安全班

☎ 62・5311